

西教寺報

一月十五日大遠夜(おたんゆ)。残口ウを使って長ノ木本坊をライトアップ。参詣者は、静謐な雰囲気の中、親鸞さまのみ跡を偲んだ。



第104号
南伝仏歴2550(2007・平成19)年
4月6日発行
呉市中央7-7-13
西教寺蔵本通支坊
TEL 0823(21)2798
FAX 0823(21)2795
http://www.saikyoji.net
郵便振替番号
01340-3-29117

紙面	
・お浄土に生まれてもアミダさまになれないのですか(岩崎正衛(住職))	…三頁
・(二案内)前坊守二十五回法要	…三頁
・新帳場・新世話人(青木武壮・濱中篤美)	…三頁
・佐乃木信子・向井妙子さん	…三頁
・長ノ木本坊本堂落慶法座	…三頁
・ビルマの響きは音もなく(斎藤久仁子)	…五頁
・敬悼録	…六頁
・敬悼 中山芳枝さん・西本ヒロ子さん	…六頁
・敬悼 久保田琢美さん	…七頁
・おとのこし報恩講・公正報恩講つとまる	…八頁
・安芸南組仏の子の集い	…八頁
・真宗学寮百周年	…九頁
・みみずくの会でエンカワンタークループ	…十頁
・誓子の日記	…十頁
・省エネ共和国(マイお誓)	…十一頁
・お誓ひとお礼	…十一頁
・行事と例会のご案内	…十一頁

お浄土に生まれてもアミダさまにはなれないのですか？

岩崎 正衛(住職)

筆者(住職)は今春喜寿(かぞえの七十七歳)を迎えました。昨年夏に肩の骨と肋骨を骨折した後遺症で、いまだにヨタヨタしておりますが、精神的には沸々としております。

と言うのも、お聞き及びの方もあろうかとも思いますが、この数年来龍谷大学の先生で、本願寺の勧学である某和上が、「私ども念仏者は、お浄土に生れても阿弥陀さまにはなれないのだ」という、とんでもない謬説(誤った説)を主張して、

恥じるどころがありません。私はカッカツとしています。二百年前、本願寺教団を揺るがせた「三業惑乱」の時、わが安芸の大瀧和上は「宗門は金城湯池の如し外敵には倒れず 獅子身中の虫にて倒るべし」

とおっしゃいました。この時も、本願寺の「能化」職という学問の最高権威者である智洞師という学者が、「わたしがアミダさまを拝むときには、心でアミダさま

をたのみ、その思いから口にナモアミダブツと称え、体に合掌礼拝する、すなわち私の身口意の三業にかけてアミダさまにお願いするのが親鸞聖人伝統の正しい心安心である」といわゆる「欲生安心(お浄土生まれたいという思いこそ大事)」を主張されたのです。

これを「欲生帰命説」とか、「三業帰命説」とか云い、「新義派」と呼ばれます。これに対して大瀧師をはじめ、河内の道隠師など、在野の学匠道俗が、こぞって反

て十数年の激動の後、遂に在野の「古義派」が勝利したのです。宗門中枢の学者の説だから正しいわけではないということは歴史が物語るところです。(委細は『西教寺報』九三号 二〇〇三[平成十五]年七月十八日発行を)ご覧下さい。

私はある人に「京都の上さんの中には、私が法蔵菩薩の願行(長時間にわたる計画と修行)の「苦労を経験していないから、アミダさまにはなれない」と言うての人が、おつてんです

【お知らせ】来る二〇一二年の親鸞さま七五〇回大法要懇志(本山より西教寺への割の当て約千四九三万二千円)について、長ノ木本坊本堂修復募財直後という事情を鑑み、ご門徒の皆さんのご負担を最大限に軽減するべく二〇〇六年七月九日総代会で決議。呉信用金庫から千三百万円を借入し、三月末日、先に本山に納入いたしました。委細と皆さまへの依頼は後日お知らせいたします。